

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます (2013年4月15日)

■第2刷 (2010年3月25日発行) の修正箇所

※第1刷からの修正箇所はhttp://www.yodosha.co.jp/correction/9784897069241_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
序章					
16	本文下から5～6行目	DEPCを <u>1</u> %の最終濃度で	DEPCを <u>0.1</u> %の最終濃度で		10/07/02
1章					
43	参考文献の2)	2) 南原英司, 立松 圭, 内藤 哲: 「発芽関連遺伝子の解析」, 『 <u>種子発芽の生態学, 生理学, 分子生物学 (仮題)</u> 』 (種生物学会/編), 文一総合出版, <u>印刷中</u>	2) 南原英司, 立松 圭, 内藤 哲: 「発芽関連遺伝子の解析」, 『 <u>発芽生物学 種子発芽の生理・生態・分子機構</u> 』 (種生物学会/編), <u>p375-385</u> , 文一総合出版, <u>2009</u>		13/04/15
2章					
122	プロトコル⑫ (下から1行目)	13,000 × <u>g</u> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.	13,000 × <u>rpm</u> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.		11/07/29
123	プロトコル⑬ (上から1行目)	13,000 × <u>g</u> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.	13,000 × <u>rpm</u> , 10分間, 4°Cで遠心して, 上清を回収する.		11/07/29
123	プロトコル② (【2】の中)	27,000 × <u>g</u> , 4°C, 3時間, 遠心する ^⑥ .	27,000 × <u>rpm</u> , 4°C, 3時間, 遠心する ^⑥ .		13/04/15
123	【3】RNAの回収のプロトコル①	分取した各画分0.225 mLに <u>3M塩酸グアニジン</u> を0.5mL, 100%エタノールを0.75mL加えて-20°Cで一晩静置する.	分取した各画分0.225 mLに <u>8Mグアニジン塩酸</u> を0.5mL, 100%エタノールを0.75mL加えて-20°Cで一晩静置する.		11/03/08
3章					
125	5 × 転写バッファー	<u>400 mM</u> HEPES (pH7.5) <u>120 mM</u> MgCl ₂ (T7またはT3) <u>160 mM</u> MgCl ₂ (SP6) <u>10 mM</u> スペルミジン <u>200 mM</u> DTT	<u>1 M</u> HEPES (pH7.5) <u>1 M</u> MgCl ₂ (T7またはT3) <u>1 M</u> MgCl ₂ (SP6) <u>1 M</u> スペルミジン <u>1 M</u> DTT		13/04/15
125	5 × 転写バッファーの最終濃度	<u>(32 mM)</u> <u>(2.88 mM)</u> <u>(5.12 mM)</u> <u>(0.02 mM)</u> <u>(8 mM)</u>	<u>(80 mM)</u> <u>(24 mM)</u> <u>(32 mM)</u> <u>(2 mM)</u> <u>(40 mM)</u>		13/04/15